

「ネイチャーポジティブ」の実現に向けて

生物多様性は山村や自然豊かな場所の話、私たちには関係ない話、そんな風に思っていないか。実は生物多様性って、名古屋という都市部に住む私たちにとっても、すごく身近で、無くてはならない大事なもののなのです。

私たちは、野菜、肉、魚介などあらゆる生きものの「いのち」をいただいて生きています。名古屋市の食料自給率は1%未満と、そのほとんどを市外に依存しているため、国内の他地域や海外の生物多様性が私たちの食生活を支えていることとなります。

また、緑地や公園といった身近に残された貴重な自然は、生きものの生息・生育の場となっているほか、その良好な景観による安らぎや癒し、気温上昇の抑制、土砂災害等の減災など、私たちに様々な恩恵をもたらしてくれる、まさに「いのち」の基盤といえます。

しかしながら、生物多様性は、森林の伐採、過剰漁獲、都市化の進行など、人間の活動による影響により減少し続けています。

身近なところでは、家の周りで草花や果実を見つけて四季を感じたり、近所の野山に分け入って遊んだり...、かつては名古屋でもよく見られたそんな光景も、現在は目にすることが少なくなりました。

2022年12月、生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）が開催され、愛知目標に代わる新たな世界目標が採択されました。2030年までに自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させる「ネイチャーポジティブ」の考え方が示され、それに向けて世界が大きく動きだしました。

本市は、2010年に愛知・名古屋においてCOP10が開催されたことを契機に、身近な自然の保全・再生と生物多様性の持続可能な利用を、市民・事業者とともに推進してきましたが、ネイチャーポジティブという新たな転換点を迎えた今、まちづくりや社会変革などの新たな視点も取り入れながら、生物多様性の取り組みを進めていく必要があります。

本計画は、2030年までに本市が重点的・優先的に取り組む事項やロードマップを定めたものであり、市民・事業者のみならず歩んでいくための道標です。

生物多様性を守ることは、私たちの未来を守ることに直結しています。地球の豊かな生物多様性を次世代に継承するために、今、行動を変えなければいけません。

ネイチャーポジティブの実現に向け、共に歩みはじめましょう。

令和5年10月
名古屋市長 河村 たかし